

日本の大学によるベトナムへの協力

番号	大学名 (所在地)	ベトナム拠 点名 (設置年月)	相手機関 (●:協定有)	分野名	協力事項	実績と今後の予定等	参考 資料	関連 HP	備 考
1	北海道大学 (北海道 札幌市)		ベトナム国家大学 ホーチミン校●	情報学, 環境学	共同研究 学生交流 教職員交流	2010 年2 月に大学間交流協定を締結し, 研究・学生 交流を実施。			
			ベトナム国家大学 ホーチミン校工科大学 ●	工学	学生交流 教職員交流	2013 年3 月に大学間交流協定を締結し, 研究・学生 交流を実施。			
2	筑波大学 (茨城県 つくば市)	筑波大学ホ ーチミンオ フィス(旧 名:ホーチミ ン事務所) (設置:2009 年8月)	ベトナム科学技術アカ デミー熱帯生物学研究 所● (協定締結:2007 年 3 月)	医学、生命 科学、バイ オテクノロジー ー及び関連 分野	共同プログラム、共 同研究、学生交 流、教職員交流	本学3番目の海外拠点として、ホーチミン市熱帯生 物学研究所内に 2009 年に設置、2016 年にホーチミ ン市医科薬科大学に移設した。ベトナムの大学、研 究機関との学術交流や共同研究の推進を支援する とともに、優秀な留学生の獲得と研究者間交流の活 性化、派遣学生の支援、帰国留学生のネットワーク 強化に取り組んでいる。			
		筑波大学ホ ーチミンオ フィス(旧 名:ホーチミ ン事務所) (移設:2016 年4月)	ホーチミン市医科薬科 大学● (協定締結:2007 年 3 月)	医学、生命 科学、バイ オテクノロジー ー及び関連 分野	共同プログラム、共 同研究、学生交 流、教職員交流	2009 年30 名程度だった本学のベトナム人留学生数 は現在 80 名を超える。また、ベトナム国家大学ハノ イ校並びにホーチミン校を含む 20 以上の大学、研 究機関と学術交流協定を締結している。			
		筑波大学ラ ボ	ホーチミン市バイオテク ノロジーセンター●	医学、生命 科学、バイ	共同プログラム、共 同研究、学生交	2016 年にホーチミン市バイオテクノロジーセンター 内に設置。ラボを会場に本学学生並び東南アジア			

		(設置:2016 年 1 月)	(協定締結:2007 年 3 月)	オテクノロジー ー及び関連 分野	流、教職員交流	地域の協定校の学生、教職員を対象に短期研修プ ログラムやセミナーを開催している。また、シニアア ドバイザーを配置し、本学で学位を取得し帰国した ベトナム人留学生の現地でのキャリア形成の支援 体制の強化に取り組んでいる。			
3	政策研究 大学院大 学 (GRIPS)	—	ホーチミン国家政治学 院(HCMA) ●、ベトナ ム社会科学院(VASS)	公共政策	共同研究	・ Leading Asia プログラム(東南アジア行政組 織開発にかかる情報収集・確認調査)に おいて、アジア型公共政策教育モデルについ て共同研究を実施。			
4	東京農工 大学 (東京都 府中市)		ホーチミン市工科大学 ●	工学	その他	2010 年に、学術交流協定を締結した。 以降、共同研究や学生の受入れを通じて交流を行 っている。		https://www.tuat.ac.jp/	
			ホーチミン市科学大学 ●	工学	その他	2010 年に、学術交流協定を締結した。 以降、共同研究や学生の受入れを通じて交流を行 っている。			
5	横浜国立 大学 (神奈川県横浜市 保土ヶ谷 区常盤台 79-1)	リエゾン オフィス (2009)	●ホーチミン市工科大 学	工学	・ 大学間交流協定 締結(2010) ・ 教員交流、学生交 流、共同プログラム	● アセアン工学系高等教育ネットワーク (AUN/SEED-Net) 共同教育プログラム ➤ ホーチミン市工科大学が中核となりヤン ゴン工科大学(ミャンマー)、本学及び JFE スチール株式会社の 4 者がコンソー シアムを組み、アセアン諸国の学生計 8 名を受け入れて土木工学の学位(修士) を付与。 ● 国際みなとまち大学リーグ(PULL) メンバー		https://www.ynu.ac.jp/international/ 	
6	長岡技術 科学大学 (新潟県)		ホーチミン市工科大学 ●	工学	共同プログラム	2006 年度にツイニング・プログラムに関する協定書 を締結し、ホーチミン市工科大学にプログラム第 1 期生を受入れた。本学には第 1 期生が 2009 年度に	02j-06 -長岡 技術		

	長岡市)					編入学し、2019 年度までに 106 名の学生を受入れている。	科学		
			ホーチミン市工科大学 ●	工学	共同プログラム 共同研究	技術開発と実践的指導的技術者育成、ホーチミン市工科大学 (HCMUT) ツイニング・プログラム学生支援、HCMUT・本学・日本・ベトナムの企業を交えた共同研究等での連携強化等を目指し、HCMUT－NUT オフィスを開設予定(2019 年 7 月 15 日開所式)。ベトナムでは、ハノイ工科大学内に設置した GIGAKU テクノパーク(GTP)ハノイオフィスに次ぐ事務所となる。			
			ホーチミン市科学大学 ●	工学	学生・教職員交流	ホーチミン市科学大学(VNUHCM-US)と 2017 年に学生交流協定を締結し、毎年、9 月初めから 1 月末まで、本学の学生の長期インターンシップ派遣を実施している。また、VNUHCM-US 修士学生の短期研究交流ならびに本学修士課程や5年一貫制博士課程への入学、VNUHCM-US スタッフの大使館推薦による国費外国人留学生の博士後期課程入学、研究留学などを積極的に受け入れ、交流を図っている。			
7	北陸先端 科学技術 大学院大 学(石川 県能美 市)	-	ベトナム国家大学ホーチミン校●	工学	共同プログラム	2006 年に学術交流協定を、2017 年に非正規学生の授業料不徴収を締結した。 以降、共同研究や学生の実入をを通じて交流を行っている。 また、2013 年よりその傘下校である University of Science とは博士前期課程協働教育プログラムを実施しており、プログラム修了者には本学の学位を授与している。			

						現在のプログラム及び過去に実施した同校との協働教育プログラム等で 55 名が参加し、本学に入学した。			
8	名古屋大学（愛知県名古屋市）	日本法教育研究センター（2012 年 1 月）	ホーチミン市法科大学（●）	法学	共同プログラム	1999 年学術交流協定締結後、研究交流・学生交流などを実施。2012 年 1 月、日本語による日本法教育を実施するために、ホーチミン市法科大学と共同で日本法教育研究センターを設置。ベトナムの法改革を担う人材、日越両国の架け橋となる人材を育成。これまで 25 名の修了生を輩出。		http://cale.law.nagoya-u.ac.jp/	
9	京都大学（京都府京都市）	JASTIP 防災サテライト拠点	ベトナム水資源大学ホーチミン校（Thuy Loi University Ho Chi Minh Campus）	工学	共同研究	2015 年度に採択された JASTIP WP4（防災分野）により拠点を整備。これまでに、1)博士後期課程学生 1 名、講師 1 名（短期滞在）を受け入れて、国際共同研究（上流ダム開発を考慮したメコンデルタの持続的な水資源管理）を推進するとともに、2)学部学生対象の国際交流科目（Conflict Management -Global Water Issues-）により現地に学生を派遣し、学部および大学院レベルでの国際交流を着実に促進。これまでに実施してきた研究課題に加えて、防災研究所の拠点研究費による国際共同研究課題（H29-30）に採択され、また、新たな JSPS 論文博士号取得希望者に対する支援事業に応募済みであり、今後とも共同研究の継続・拡大に向けた取り組みを進める予定。	02j-9-京都大学	http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/international/events_news/of_fice/kyoiku-suishin-gakusei-shien/kokusai-kyoiku-koryu/news/2015/150911_3.html	
10	大阪教育大学（大阪府柏原市）		ベトナム国立ホーチミン市師範大学	教育	共同プログラム	2018 年度にホーチミン市の小学校教員 20 名に理科実験研修を共同で行った。今後も継続するとともに、ホーチミン市師範大学学校教育学部の教員を本学で 2 か月間研究員として受入れの予定。			

11	奈良先端 科学技術 大学院大 学（奈良 県 生 駒 市）		ベトナム国家大学ホー チミン市科学大学電子 通信学部● 郵政電信工芸学院ホ ーチミン市校●	情報科学 バイオサイ エンス 物質創成科 学 上述の分野 を含めた融 合領域	共同研究 学生交流 教職員交流	協定校を中心に共同研究、学生交流及び教職員交 流を活発に行っている。2018 年度の主な活動は次 のとおり。 ・ベトナム科学技術院バイオテクノロジー研究所と の現地の生物資源を利用した機能開発と産業利 用、医療応用を目指した国際共同研究の実施 ・2018 年度中にベトナムから 20 名以上の留学生を 受入 ・国際担当理事を含め、本学教職員・学生がベトナムの大学（ダナン科学技術大学、フエ科学大学、ベトナム科学技術アカデミー生物工学研究所、ベトナム国家大学ハノイ自然科学大学）を訪問し、本学の教育研究内容を紹介		http://www.naist.jp/international/	
12	岡山大学 （岡山県 岡山市）	岡山大学 大学院環 境生命科 学研究科 海外事務 室 （2018 年 3 月）	ノンラム大学ホーチミ ン市●	農学・環境学	共同プログラム	2017 年度から始まった「国際異分野共同による教育研究を核とする国際社会人共同博士号取得拠点の形成」事業の中で、2018 年 3 月から農業・環境分野の持続可能な発展をテーマにサマースクールをノンラム大学ホーチミン市にて共同開催しており、岡山大学の若手教員による講義とともに、教員・学生の相互交換を実施するなど、東南アジアの若手教員等の博士号取得を促進する取組を行なっている。2018 年度は、ノンラム大学とクィーンズランド大学と共同で持続可能な農業と環境をテーマとした国際シンポジウムを開催するとともに、若手研究者を岡山大学に招聘してスプリングスクールを開校した。		http://www.gels.okayama-u.ac.jp/kokusaisyakaizin/	

		岡山大学 大学院環境生命科学研究科 海外事務室 (2018年3月)	ドンナイ省科学技術局●	農学・環境学	共同研究	ドンナイ省科学技術局のバイオテックパークでの共同研究をはじめ、岡山大学学生の海外農場実習などの教職員・学生の相互交換を実施している。2018年3月に同局との更なる交流促進の一環として、また東南アジアに向けた本研究科の拠点としてホーチミン市内に研究科事務室を設置し、日本人コーディネーターを配置している。		http://www.gels.okayama-u.ac.jp/en/news/index_id7793.html	
13	長崎県立大学 (長崎県佐世保市)	ホーチミン (2016年8月)	ホーチミン市内の企業 (日本通運、JETRO等)	経営学部 国際経営学科	インターンシップ	経営学部国際経営学科の必修科目「海外ビジネス研修」として3週間のインターンシップを実施			
14	京都工芸繊維大学 (京都市)		ベトナム国立大学ホーチミン理科大学(2002年11月1日)		共同研究 学生交流	● 2010年～2013年: 日本学術振興会二国間交流事業共同研究「ショウジョウバエモデルとベトナム由来天然物のヒト疾患研究への応用」 ● 2014年～2016年: 日本学術振興会研究拠点形成事業(アジア・アフリカ学術基盤形成型)「アジア昆虫バイオメディカル研究ネットワークの構築」 ● 2018年～2020年: 日本学術振興会研究拠点形成事業(アジア・アフリカ学術基盤形成型)「天然物化学・昆虫バイオメディカル融合による天然生理活性物質研究ネットワークの構築」			
			ベトナム国立大学ホーチミン工科大学(2007年11月26日)						

